

経営会議の内容

件 名	第 2 次大和市食育推進計画について
所 管 部	健康福祉部
日時・場所	平成30年11月19日（月）10：25 ～ 11：25 政策会議室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり計画部長、都市施設部長、病院事務局長、消防長、教育部長、健康づくり推進課長
提 出 理 由	第 2 次大和市食育推進計画を策定するにあたり、その内容について了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 ・食育推進チーム部会や食育推進会議で計画内容の協議を重ねてきているとのことだが、構成メンバーが内部職員等に限定されている。今後、進行管理をしていく上では、外部関係団体等の参加を促していったほうが良いのではないかと。 （所管部）今回の計画策定においては、学識経験者や関係団体への意見聴取をしながら、庁内組織の食育推進チーム部会や食育推進会議へフィードバックする形で議論を深めてきた。今後、学識経験者を含めた推進会議等を組織するかどうかについては、改めて検討していきたい。 ・地域の飲食店などに健康メニューや地場産の食材を使ったメニューの提供をしてもらうなど、食育の普及啓発に向けて様々な連携をしていくことは良い取組だと思う。 ・具体的な取組に、産学官の連携による食育の推進が挙げられており、非常に良い内容であると感じる。計画の策定にあたり、産業界に意見聴取した経過はあるか。 （所管部）計画の策定にあたっては、商工会議所をはじめ、産業関係団体にも意見聴取している。こういった事業所等を巻き込んだ新たな取組として、市内飲食店等に協力をいただきながら食育を推進する「やまと食の応援団」を実施していくことを考えている。 ・計画期間について、時代の流れに応じた機敏な対応を考慮して、期間を5年より短く設定することも検討の余地があるのではないかと。 （所管部）現時点では、市の最上位計画である総合計画の前期基本計画に期間を合わせることを妥当であると判断している。 ・7つの施策展開の並びについては、家庭からはじまり、幼少期、学校を経て地域、そして個別具体的な取組へと広がっていくと理解しているが、基本目標では、「食を通した心身の健康づくり」がはじめに位置付けられ、次に「食への理解を深め感謝するこころの醸成」と構成されており、順が逆になっている印象を受けるが、どのように考えているか。 （所管部）7つの施策展開は、並びを意識して2つの基本目標の下に位置付けているものではなく、全ての施策展開につなげていくものである。 ・計画内には、新しい要素として図書館との連携についての内容が盛り込まれ、食育に関する本の紹介もされている。今後、さらに連携を深めてもらいたい。 ・本市は、横浜・F・マリノスから、ホームタウンとして市の事業に協力をいただいている。マリノスは食育プロジェクトにも力を入れているため、連携も視野に入れて取組を進めてほしい。 ・計画全体として積極的に施策の入れ替えを検討し、各所管の問題意識や取組がわかりやすい内容になっていると感じる。

- ・施策 5 の食品ロスの削減につながる食育に関する指標がわかりにくい印象を受けるが、どのように考えているか。

(所管部) 基本目標に掲げる「食への理解を深め感謝するところの醸成」に向けて、食品ロスの削減は欠かせない要素であると考えている。指標については、食品ロスの削減が直接的に数字に表れるものは設定していないが、削減につながる様々な取組や活動を設定したものである。

- ・計画内に「親と子が相互に、そして次の世代へ」つながる食育の取組を進めていく、と表現されているが考え方は。

(所管部) 食育は、親が子を導いていく面もあるが、一方では子から親への問いかけによって家庭全体が食育について目を向けていく面もある。これをふまえてさらに、家庭の中の親子という小さなサイクルが、地域や次の世代といった大きなサイクルに発展していくことを目指し、表現したものである。

- ・計画書全体を通して、メッセージ表現や市民の興味をひくような内容が組み込まれてあり、非常に良いつくりであると感じる。

- ・今後、本市においても空き家が増えていく可能性がある。地域における食育の取組の中で場所の活用を検討してもよいかもしれない。

- ・計画には、「シニア世代」と「高齢の方」と表現が分かれているが、考え方は。

(所管部) 計画内では 65 歳以上の方を「高齢の方」として表現している。施策 7 のねらいに「シニア世代」と表現したのは、学識経験者からの意見をふまえてわかりやすい表現を使ったことによるものである。

- ・行事食や伝統食の知識を身につけたいと考えている市民のうち、30～40 歳代の女性の関心が高いということであり、これらが子育て世代の年齢層であることをふまえると、家庭における食育を推進していく意義を感じる。この世代を対象にした具体的な取組で検討しているものはあるか。

(所管部) 計画では、それぞれのライフステージに応じ、各施策の中で踏み込んで取組を進めていきたい考えである。子育て世代の保護者に対しては、地域で行う食育教室や料理講習などで啓発を行っていきたい。

- ・今回の計画策定の基本的な考え方の「食育の大切さを実感すること」は重要であると思う。施策展開の中ではどの部分に関連が深いのか。

(所管部) 計画では、施策 3 のねらい「食育推進のための意識啓発を進める」と施策 4 のねらい「食に関する意識啓発を進める」に関連させている。

- ・計画の中身を読み込むと見えてくる内容であっても、表面上、何のための取組であるのかわからなくなることもあるため、必要に応じて適切な言葉を添えるなど、工夫してほしい。

- ・指標からは、食育に関心を持っている市民の割合は一定程度であっても、実行できている人の割合が低い現状が見受けられるが、どのように対応していくのか。

(所管部) 原因を分析して、施策に結び付けていくことは重要であると考えている。市民意識調査を定期的実施するほか、保健師、管理栄養士の訪問活動で市民と接する機会などを通じて、原因に結び付く本質的な意見を捉えながら対応を検討していきたい。

- ・女性のやせは、骨粗しょう症のリスクが高まると言われる。また高齢の方の栄養状態が悪いと免疫力の低下やフレイルのリスクが高まる。この計画を通じて、食事が大切であるということを一層啓発して行ってほしい。

- ・健康の柱は食である。本市では小中学校で給食を提供するなど、県内でも他市に先駆けた取組を行っており、学校では給食を通して、つくる側と食べる側の顔の見える関係の中で、食育の取組を検討しているところである。一方で、学校の中での食育に関する取組が、なかなか家庭に反映されていない現状を課題として認識している。朝食をとらない子どもなどが一定程度認められる中で、学校現場としても意識をもって食育を進めていきたい。

	・計画には、本市の特徴として図書館を活用する内容が盛り込まれているが、市民の目に触れる際には、一般的な図書館のイメージとして伝えるのではなく、本市の象徴的な施設であるシリウスの健康都市図書館を活用することが伝わるように、表現の仕方を検討してほしい。 ・具体的な取組として、こども食堂への食に関する情報提供が挙げられているが、評価指標にできる内容として取り上げられないのか。 (所管部) こども食堂については、実際の連携がまだ始まっていないため適切な指標が見いだせないのが現状である。 ・施策１の「家庭における食育の推進」、施策２の「地域における食育の推進」に設定している評価指標は、市民意識調査の結果を設定しているにすぎない。非常に難しい問題だが、食育推進計画による食育の取組が、一般市民に向けて広がっていくためには、意識調査の結果のみを捉えているのではなく、地域や家庭への対応の仕方を考えていかなければならない。 ・本市は 70 歳代を高齢者と言わないことを宣言している。計画内にあるシニア世代、高齢の方などが指す言葉の使い方は、適切に考えていく必要がある。
会議結果	一部修正の上、進めていく。